

国語(小)部会 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	これからの授業づくり ～説明的文章教材を通して～	
日時	令和 元年 8月 24日(金)	
会場	北広島市立緑ヶ丘小学校	
講師	青木 伸生 氏 (肩書:)筑波大学附属小学校 教諭	
参加者	84名(うち 役員10名)	
研修会 の 様子		<p>① 『ぼくの世界、君の世界』での授業公開 文章の中で一番大事だと思う段落を探させる＝要点を見つける学習でした。 児童は、文章を良く読み、具体例や疑問文を探しながら、文章の構造を読み解いていました。 見つける手がかりとして「主語」を挙げた青木先生の言葉に、児童はもちろん、参加者の皆さんも、納得の表情でした。</p>
		<p>② 一目でわかる文章構造図の板書 『ぼくの世界、君の世界』の文章が、「ぼく→君と友達→わたしたち→人」というように、一般化されていく、という構造が板書で表されています。 主語に目を向け、筆者が伝えたいことをとらえさせました。</p>
		<p>③ 文章構造の見つけ方 小学校で学ぶ説明的文章の文章構造には、大きく分けて「時系列型」「統括型」「尾括型」「総括型」の4つに分類されます。 分科会②では、参加者も実際に段落構成図を作りました。簡単な4つの文章で練習した後、『めだか』の構造を考えました。 段落構成図は、わかりやすいところから見つける、というポイントが、青木先生から示されました。</p>
		<p>④ 中心文の見つけ方 分科会②の後半では、中心文を見つける方法を学びました。 見つけ方の方法は、大きく3つあり、第一に「文章構造を考える」、第二に「つなぎ言葉に注目する」、第三に「前後の段落を見比べる」ことだそうです。 今度は、『くらしと絵文字』の前半部分を使って挑戦してみました。「中心文＝要点」をつなぎ合わせていくと「要約」になることなど、説明的文章で学習する部分について触れていただきました。</p>